

「私が介護職？」

そんな私が30年も続きました



市介護サービス機関連絡協議会
居宅介護（予防）支援部会長 山田 正子

介護事業所ケアマネジャーとして働く山田さん。リーダーとして、法人の在宅サービス全13部署を取りまとめるながら、自らもケアマネジャーとして利用者さんのケアプランを組んでいます。

彼女の介護職との出会いは30歳を過ぎてから。ヘルパーという仕事があった、好きな時間にやれるよ、と知人に誘われたことがきっかけでした。

「当時資格も持っていなかったですし、内職をやるくらいの気持ちで始めました。周りに『ヘルパー始めたん

だ』と話すと、『えーあなたが!?』って。私もそう思いましたよ。（笑）だから最初面接の時も『いやだと思ったら辞めますから』って宣言しました。」はじめはヘルパーからスタートし、ほどなくして介護保険の制度が始まります。環境などがめまぐるしく変わる中、少しずつキャリアを積み、会社からの打診でケアマネジャーへの道を歩み始めました。

当初「介護職とは正反対」だと自他ともに感じていた山田さんが、なぜ今日まで続けているのでしょうか。

ケアマネジャーとしてのやりがい

「ケアマネジャーって、直接感謝の言葉を言われることが少ないんです。ヘルパーをしていた頃は、お風呂の手伝いや掃除をしたり、直接利用者さんと関わることで『ありがとうね〜』って言われることが多かったですが。」

ケアマネジャーの仕事は、介護・支援を必要とする人の心身の状態に応じて適切に介護サービスが利用できるよう、介護サービス計画（ケアプラン）を作成し、関係機関との連絡調整や生活全体の後方支援を行うこと。つまり、縁の下の力持ち。ケアマネジャーがケアプランを組んだら、サービス担当者会議を開きます。そこでは、各サービスの担当者が集まって1人の利用者さんのことをじっくり話し合います。

「自分のこと、家族のことをこんなに真剣に考えてくれて嬉しい」と言われることもあります。今は直接介護を行っているいませんが、利用者さんが本人らしくまたご家族も笑顔になれるよう、普段は静かに見守りいざというときには素早く対応することを心がけています。」

ケアマネジャーの仕事の流れ

（例）骨折により歩行困難になった
独居のAさんの場合

① これまでの経緯や生活・身体状況、今後の希望を聞く

骨折前のよう
に歩けるよう
になりたい

歩けるようになる
ためにはリハビリ
も必要かな

② 実際に使いたいサービスやサービス事業所を決定（ケアプラン作成）

この事業所が
雰囲気合いそう…

③ サービス担当者
会議の開催

④ サービス利用票を作成し
サービス利用開始

利用者さんにサービスの満足度や現状
を確認し、随時相談に応じます。